

新体制発足後、丸5年を迎えるにあたって

2021年 7月 9日

会長 兼 CEO



1. 第127期定時株主総会

6月29日に、堺本社で、第127期定時株主総会を開催しました。今年も昨年と同様に、私は台湾からテレビ会議での出席となりましたが、議案に関する質疑応答及び採決は滞りなく行われ、取締役選任をはじめとした5つの議案すべてをご承認いただきました。また、株主総会終了後には、各事業本部長出席の下、経営説明会を開催し、株主の皆様から当社事業に関するご質問やご意見を頂くとともに、温かいご声援を頂戴しました。株主様の日頃のご支援に対し、改めて感謝したいと思います。

加えて、今回の株主総会では、同日に開発を発表した「mini LED 次世代ディスプレイ」の展示も行い、株主の皆様やメディアの方々に体験していただきましたが、「圧倒的な明るさで従来機との違いは一目瞭然。商品化が楽しみだ。」「黒が引き締まって美しく、大画面の迫力を感じた。」など、高い評価を頂戴し、様々な WEB ニュースや新聞記事で取り上げていただくことができました。SDS 事業本部の皆さんには、日本ブランド初となる次世代テレビの商品化を早期に実現し、さらなる事業拡大、そしてブランド価値向上に繋げていただきたいと思います。

2. 新経営体制

先程もお話しした通り、先日の株主総会において、新たな経営体制が承認され、今年度も引き続き、私と野村社長が先頭に立ってシャープの舵取りを行うこととなりました。

また、今回、新たに2名の取締役、莊宏仁氏と許庭禎氏をお迎えしました。莊氏は、投資ファンドにおける経験をお持ちで、M&A 等による事業拡大に貢献していただく考えであり、一方、許氏は、半導体やディスプレイ分野における経験をお持ちで、デバイス事業における協業についてアドバイスをいただく考えです。

新経営体制の下、今後も引き続き、社員全員の力を結集して事業拡大に取り組み、株主をはじめとした全てのステークホルダーのご期待にお応えしていきましょう。

3. 原点回帰

来月には、私がシャープの経営に携わってから丸5年となり、一つの区切りを迎えます。当社はこの5年間、様々な環境変化が起こる中でも、経営基本方針の下、全社一丸となって抜本的構造改革や事業変革に積極果敢に挑戦してきた結果、大きく経営改善を果たすことができました。この間の皆さんの努力に改めて感謝します。本当にありがとうございます。

足元の事業環境は、新型コロナウイルスや半導体不足、物流の逼迫、鋼材や樹脂といった原材料価格の上昇など、日に日に厳しさが増しており、今後も想定を超えるような変化が起こることも考えられますが、こうした中においても、5年、10年と、シャープが持続的に成長していくためには、私たちの改革の原点となる経営基本方針に沿って、環境変化に対応して、常に自らを変革し続けることが重要です。

これまで、計45回のメッセージで、経営基本方針について具体的事例を用いて説明してきましたが、本日は、今、私たちが改めて認識すべき重要なポイントについて再確認しておきたいと思います。今一度、社員全員が肝に銘じるとともに、きちんと実践できているか、自らを振り返ってください。

1) 創業の精神（該当メッセージ発信日：2016年8月22日、2018年6月25日）

「経営理念」や「経営信条“誠意と創意”」、早川創業者の「“まねされる商品をつくれ”の精神」など、「創業の精神」は当社の根幹を為すものであり、これからも大切に継承し、常に「Be Original.」を実践すること。

2) 正々堂々の経営（2017年2月27日、2021年3月30日）

法令遵守はもとより、東証一部上場企業に相応しい企業倫理に沿った事業活動を行い、社会的責任を全うすること。

3) 輝けるグローバルブランド“SHARP”（2016年8月22日、2021年5月11日）

事業ビジョン“8K+5G と AIoT で世界を変える”の具現化を通じて、人や社会に寄り添い、常に新たな価値を提供し続ける“強いブランド企業”の確立を目指すこと。

4) 開源節流 (2019年4月19日/2020年6月1日)

“開源”の観点では、「4象限経営」を実践し、新たな事業の創出を加速すること。“節流”の観点では、日々のオペレーションや組織体制、サプライチェーンにおいて、様々な視点でムダの撲滅に取り組むこと。

① 事業変革 (2019年7月25日/2019年10月23日/2021年5月11日)

サービス/ソリューション事業の展開、新たなプラットフォームの創出、グローバル事業拡大、B2B/B2C ビジネスの両面展開、健康/医療分野への新規参入、COCORO LIFE を梃子にした EC ビジネスの強化など、新たな発想で事業拡大に取り組み、早期にビジネスモデルの転換を図ること。

② 量から質へ (2018年8月3日/2018年10月30日)

高付加価値モデルやローカルフィットモデルの比率を高める「製品の“質”の向上」、さらには、8K や AIoT を活用した革新的な商品やサービスによりイノベーションを実現する「事業の“質”の向上」に取り組み、利益ある成長を目指すこと。

③ プラス経営 (2019年7月25日/2020年6月1日)

事業戦略の立案・実行においてはもとより、拠点の集約や閉鎖、不採算事業の見直しといった構造改革を実行するにあたっては、単なる削減一辺倒の発想ではなく、新たな価値を創出するという発想を持って改革に取り組むこと。

④ One SHARP (2016年9月21日/2018年10月30日/2020年11月11日)

拠点の統合や遊休資産の活用、共同調達など、全社の経営資源を有効活用し、経営効率の向上を図るとともに、販路の相互活用や技術の融合による新規事業の創出等、事業間の連携を強化し、事業拡大に取り組むこと。

⑤ M&A/協業、借力使力 (2016年8月22日/2020年3月3日)

自社のみならず、他社のリソースを有効に活用し、事業変革や競争力強化を加速すること。

5) 強い決心/Ambition (2018年8月3日/2018年8月31日)

難しい課題から目を背けず、野心を持って積極果敢に挑戦し、“有言実現”を目指すこと。

4. 最後に

6月4日に、日本から台湾に、新型コロナウイルスワクチン124万回分が提供されましたが、これに続いて、昨日、113万回分の追加提供がありました。この場をお借りして、支援を決定された日本政府に対して、改めて感謝の意を表したいと思います。また、7月23日からは、いよいよ東京オリンピックが始まりますが、安心安全な大会として、無事、成功を収められることを祈念します。

本日お話しした通り、足元の事業環境は極めて厳しい状況が続いていますが、私たちが今為すべきことは、経営基本方針を着実に実行していくことです。繰り返しになりますが、新経営体制の下、今年度も全社一丸となって改革に取り組み、業績目標の達成を目指しましょう。

以上